

1 一過性異常骨髄増殖症の一症例

2
3 大谷寿雄 武井とみ子 小宮順子 笹尾祐太(成
4 田赤十字病院 検査部)

5
6 [はじめに] 一過性骨髄増殖症(TAM)は

7 ダウン症候群の新生期に芽球増多をきたす一過性
8 の血液疾患である。多くは無治療で自然軽快するが、
9 心肺不全や肝繊維症を併発した、予後不良例も報告
10 されている。今回一例を経験したので報告する。

11 [症例]生後1日新生児、21トリソミー様顔貌、低
12 出生体重児、早産を主訴に当院に新生児搬送される。
13 白血球の増加と末梢血液像でbleb(突起)の認める
14 Blast様細胞が多数出現して、一過性異常骨髄増殖
15 症(TAM)が疑われた。

16 [入院時検査結果]WBC 52.900/ μ L、RBC 383×10^4
17 Hb 13.9g/dL、Ht 42.1%、MCV 109.9 fL、MCH 36.3
18 pg、MCHC 33.0%、PLT 66.2×10^4 / μ L、Blast様細
19 胞 72.0%、Myelo 0.5%、MetaMylo 2.5%、Seg 9.5%
20 Lymph 9.5%、Mono 0.5%、Eosino 3.5%、Baso 2.0%、生
21 化学:TP 4.6g/dL、ALB 2.8g/dL、AST 37U/L、ALT 48U/L、LD
22 1399U/L、ALP 711U/L、 γ -GT 634U/L、T-BiL

23 0.32mg/dL、UN 9mg/dL、Cr 0.60mg/dL、UA 5.0mg/dL、Ca
24 8.9mg/dL、CRP 0.03mg/dL、IgG 674mg/dL、IgA 5>. IgM
25 16mg/dL。骨髄像検査:総細胞数 91000/ μ L、巨核
26 球数 (+) Blast様細胞 34.6%、PRO
27 0.2%、Myelo1.0%、MetaMyelo 1.6%、Band 8.0%、Seg
28 17.6%、Eosino 9.8%、Mono 1.0%、Lymph 1.0%、PolyEbl
29 23.8%、OrtoEbl 1.2%、組織球 0.2%、ME比 1.53、
30 表面マーカー:CD7、33、41、34が陽性。

31 染色体検査で、21トリソミータイプの
32 ダウン症と確定された。末梢血のBlast様細胞は
33 徐々に減少し、52日後に消失した。

34 [まとめ]ダウン症候群の新生児に見られるTAMは約
35 10%の頻度で見られ、予後不良因子として、早産、
36 低出生体重、肝機能障害などが指摘されている。
37 無治療で自然軽快した、本症例を報告する。